

北海道大学シラバス					
科目名					
一般教育演習(フレッシュマンセミナー)					
講義題目					
海のフィールドに出よう 1					
責任教員 (所属)					
中屋 光裕 (大学院水産科学研究院)					
担当教員 (所属)					
中屋 光裕 (大学院水産科学研究院) 大西 広二 (大学院水産科学研究院) 亀井 佳彦 (水産学部附属練習船おしよる丸) 星 直樹 (水産学部附属練習船おしよる丸) 大和田 真紀 (水産学部附属練習船うしお丸) 佐藤 太一 (水産学部附属練習船おしよる丸) 今井 圭理 (水産学部附属練習船おしよる丸) 栗原 秀幸 (大学院水産科学研究院) 山木 将悟 (大学院水産科学研究院) 野村 大樹 (大学院水産科学研究院) 高橋 勇樹 (大学院水産科学研究院) 富安 信 (大学院水産科学研究院) 永田 淳 (大学院水産科学研究院) 長谷川 浩平 (大学院水産科学研究院)					
科目種別	全学教育科目(一般教育演習)			他学部履修等の可否	可
開講年度	2025	期間	1 学期	時間割番号	
授業形態	演習	単位数	2	対象年次	1～
対象学科・クラス	基礎1-53組			補足事項	
ナンバリングコード	GEN_LIB 1000				
大分類コード	大分類名称				
GEN_LIB	全学教育 (教養科目)				
レベルコード	レベル				
1	全学教育科目 (語学上級科目、高年次対象科目を除く)				
中分類コード	中分類名称				
0	一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)				
小分類コード	小分類名称				
0	一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)				
言語					
日本語で行う授業					
実務経験のある教員等による授業科目					
該当しない					

キーワード

フィールド、海洋環境、自然、グループ学習、課題発見、問題解決、プレゼンテーション、おもしろ丸

■ 授業の目標

北海道大学の教育基本理念の達成を目指して、水産学部附属練習船おもしろ丸を利用したフィールドでのグループ体験学習を通して課題発見・問題解決型の自発的学習能力を養います。北海道大学の基本理念：1) フロンティア精神、2) 国際性の涵養、3) 全人教育、4) 実学の重視。

■ 到達目標

グループ単位で全員が授業計画に従って行動し、自然に触れながら学び、お互いにコミュニケーションをとりながら、到達目標を達成する。

到達目標：

- 1) 各自が目標を持って積極的に行動しグループ内やグループ間で自分の意見を他人に理解してもらう。
- 2) 他人の意見に耳を傾け良い点を見つける。
- 3) 主題についてまとめたことを成果として発表する。
- 4) グループ全員で共同作業をして効果的な発表方法を考える。
- 5) 与えられた時間内で目的とする作業を終了できる。
- 6) 責任あるグループ行動ができる。

■ 授業計画

この演習は水産学部附属練習船「おもしろ丸」を利用します。3泊4日の集中合宿で早朝から夜まで実施します。スケジュール案：札幌キャンパス集合～借り上げバス移動～函館港、おもしろ丸に乗船。乗船手続き、船内生活に関する講義を受けて出港・実習開始。実習内容：練習船に関する講義、操船体験、イカ・浮魚釣体験、イカ・浮魚解剖、海洋観測、プランクトン/海洋プラチック採集・観察、水中ドローン、鳥類・鯨類等の目視観測、天体観測、退船訓練、グループ発表、等。これらの体験学習を通して海という自然環境を理解し、同時にコミュニケーション能力を高め、協調性を獲得する。函館港で下船～借り上げバス移動～札幌キャンパス、解散。尚、実習項目は天候・海況によっては変更することがあり、一部実施できないこともあります。＊最新の情報は集中講義掲示板を参照してください。

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

履修登録後の参加取りやめは非常に迷惑です。船上での集団生活は陸上での生活とは大きく異なります。持病がある人・実習生活に不安のある人は参加申請前に必ず担当教員（中屋：mnakaya@fish.hokudai.ac.jp）に相談してください。また、実習期間・ガイダンス実施日を熟考して、参加が確実な人のみ参加申し込みを行ってください。事前実施のガイダンス（日程はポスターで紹介）により詳細な内容を説明します。実習への参加にはガイダンスへの出席が必要です。ガイダンス時にテキストを配布し、グループ分けも行い、実習内容や個人レポート、グループ作業・討論に関する事前学習が始まります。

新型コロナをはじめとする感染症の船内持込を防ぐため、乗船前1週間程度の行動制限（居住地域からの移動制限）、検温記録、函館への移動期間・手段の制限を設ける場合があります。この実習機会を利用するの函館方面への観光・帰省などを考えている場合は、実習終了後の予定として下さい。

■ 成績評価の基準と方法

船内・洋上という特殊な環境に順応し、次々に実施される実習項目をこなす精神力・集中力が必要です。（基本的にどのような事情があっても）練習船は途中寄港しないため、実習途中からの参加や途中での離脱はできません。成績は個人としての実習への参加態度に加え、グループでの活動も評価します。実習前のガイダンス出席・諸手続き、下船後の個人レポート、グループでの共同作業力、課題発表の内容・評価等を総合して判断します。

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

■ テキスト・教科書

[水産科学・海洋環境科学実習 / 北海道大学水産学部練習船教科書編纂委員会編 : 海文堂出版, 2019, ISBN:9784303115005](https://www.hakurei.co.jp/book/9784303115005/)

■ 講義指定図書

 参照ホームページ 研究室のホームページ 備考

食事代と寝具クリーニング(3,600円)と借り上げバスによる札幌～函館の往復料金（約10,000円）が掛かります（個人での札幌から函館への移動は、認めません。復路でバスを利用しない事は認めますが、料金の返金はありません）。学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に加入していなければ受講を認めません。新型コロナ・麻疹(はしか)予防接種の受診を推奨します。「海のフィールドに出よう1・2」と「海のフィールドで試す1・2」は同内容です。水産学部生および既に水産学部への進学を決心している人も履修できますが、推奨しません。水産学部生が2年生または3年生で履修する「基礎乗船実習」とは共通する部分が多く在ります。他学部の学生にとって、このフレッシュマンセミナーが、ほぼ唯一のおしよろ丸への乗船機会となりますので、その機会を奪わないよう考慮してください。水産学部生には専門分野にかかわる、より高度な実習内容が別途多数用意されています。

 更新日時

2024/12/26 12:48:16

 授業実施方式

対面授業科目《対面のみ》